

① 学習指導案

プログラム	No.11「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全28時間)	地域提言 うちのDEまちづくり
学習のねらい	地域防災のあり方や地域の実態についての学びを通して、自分と地域との関わり気付く 地域の一員としてよりよいまちづくりについての考えを深め、地域提言として発信する
学習内容	1 学習のねらいとあらましを知り、見直しをもつ 2 自分たちが知っている地域のよさや課題を明確にする 3 様々な立場でまちづくりに取り組む地域の方々を招き、地域の現状を知る 4 SDGsの17の視点を学び、地域を見直す 5 フィールドワーク等により、地域の実態を調査する 6 まちづくりのための提言をまとめる 7 地域の方々を招き、まちづくりのための提言を発表する 8 学びを振り返る
参考資料	地域のゲストティーチャーや外部講師からの提供資料
準備品	ワークシート 模造紙 色画用紙 マーカーペン ホワイトボード デジタルカメラ
実施場所等	教室 体育館 武道場 図書室 コンピュータ室 地域各所

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
1	学習のねらいとあらましを知り、見直しをもつ	「うちのDEまちづくり」の学習のねらいと活動内容をプレゼンテーションする	学習の内容を知り、意欲をもつことができたか。
1	自分たちの視点で地域のよさや課題についてファシリテーションを行う	中学生として感じている地域の魅力や改善したい点を自由な発想で出させる	地域のよさと課題をまとめることができたか
4	地域からゲストティーチャーを招き、地域の現状を語ってもらったり意見交換したりする	さまざまな立場で地域に貢献する方々のお話し聞いたり質問したりして生徒の地域理解の視野が広がるように働きかける	地域に対する捉えを広げることができたか
4	SDGsの視点を学び、まちづくりのアイデアを考える	SDGsの17の視点をどのように地域に当てはめればよいか考えさせる	SDGsの17の視点を通してまちづくりのアイデアを構想できたか
8	書籍やインターネット、フィールドワークにより、地域の実態を調査する	実現性のあるまちづくりのアイデアを目指して情報収集を行うように支援する	地域の実態に基づいて、実現性のあるまちづくりのアイデアを考えることができたか

6	提言を発表する準備を行う	ポスターセッションの形での発表にふさわしい工夫を考えさせる	相手意識をもってわかりやすい発表となるように工夫できたか
3	地域に関わる大人を招いて、まちづくりのための提言を発表する	自分たちの提言が新たなまちづくりのプロジェクトの始動となることを目指し、地域の方々の案内や発表の進行も生徒たちの手で進め、主体的な発表会となるように支援する	相手意識をもってわかりやすい発表ができたか
1	学習の振り返りを行う	学習を通して、地域に対してどのような思いをもったか、どのような力がついたか、自覚を促す	振り返りワークシート

<留意点>

- ・具体的な学習のイメージをもてるように写真を活用したガイダンスを行う
- ・ファシリテーションやワークシートを活用し、生徒の考えを引き出す
- ・地域教育コーディネーターと連携し、さまざまな分野の地域人材を広く集め、活用する
- ・地域の方々と接する機会が多いことから、キャリア教育の一環として社会人にふさわしいマナー講習を実施する
- ・まちづくりのアイデアをさまざまな立場の地域の方々に提言として聞いてもらい、意見や評価をいただく

② 事業実施報告書詳細

学校名 新潟市立内野中学校

時間数	場所	概要	対象者の反応
1	武道場	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を交えたプレゼンテーションで「うちのDEまちづくり」の概要について知る ・ファシリテーション等の話し合いの進め方について再確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつことができた ・主体的に話し合いに参加した
1	各教室	<ul style="list-style-type: none"> ・「内野のよさと課題」をテーマにファシリテーションを行う ・グループ毎に話し合いの結果を発表し共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・内野の歴史、文化、交通、自然、地勢景観、産業、伝統などさまざまな視点から考えることができた ・地域のよさとして「人と人とのつながり」が一番多く挙げられた
4	各教室 武道場	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな立場で地域に貢献する方々から話を聞く ・地域の方々から学んだ内容を振り返りレポートにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の視点とは違う大人の視点から地域をみることにより、地域に対する捉えの広がりがみられた ・地域のために情熱をもって活動する方々に触れ、地域への関心が高まった

		<p>ゲストティーチャーの方々</p> <p>夢アートうちの（地域イベント企画）</p> <p>漆塗箔師（伝統産業）</p> <p>新川まちおこしの会（川の歴史の周知と環境整備活動）</p> <p>コミュニティ協議会（祭りや地域イベントの企画運営、地域食堂の立ち上げ）</p> <p>商工会青年部（地域イベントの企画、運営）</p> <p>地元企業社長（若者向けの店舗の展開）</p> <p>新潟大学教授（地域密着アートイベントの開催）</p> <p>新大ダブルホーム（学生と地域の人とともに地域課題に取り組む）</p> <p>地区防災・防災連合会婦人部（女性の立場から地域防災に取り組む）</p> <p>女性消防団員ひまわり隊（高齢者家庭への防火指導、幼児防災教育）</p> <p>防災士（地域社会の防災力向上）</p> <p>地域住民の方々（心肺蘇生訓練、消火訓練、簡易担架の作成、応急処置）</p>	
4	<p>体育館</p> <p>各教室</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点を学び、自分たちの地域に当てはめて考えてみる ・自分はどのようなまちに住みたいか未来の地域の姿について考える ・17の視点をもとに、まちづくりのアイデアについてファシリテーションを行う ・どのようなアイデアを考えたか発表し合い、共有する ・どのようなまちを目指すのか明確にして、班で追究するまちづくりのテーマを絞り込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む地域を国際的な視点で見直すことによって、アイデアの多様化や深まりがみられた ・自分の住むまちは自分たちがつくっていくという意識がうまれた
8	<p>各教室</p> <p>図書室</p> <p>PC室</p> <p>地域各所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのテーマをより具体的な提言となるように調査活動を行う ・提言に必要な情報の入手先や必要な調査事項を考える ・どのような地域の資源に、だれが、どのように働きかけて、どのようなまちを目指すのか明確にして、企画書を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域教育コーディネーターの協力の下、調査対象を探したり、訪問のアポイントをとったり主体的に活動した ・実際に地域に出てさまざまな角度から情報収集をしていた ・どのように提言を実現するか、提案の窓口や資金、アナウンスの仕方などを検討し、シミュレーションする姿がみられた
6	各教室	<ul style="list-style-type: none"> ・企業研修等でも活躍する講師から社会人にふさわしいマナーを学ぶ ・提言の企画書をもとに、わかりやすく相手に伝える準備をする ・ポスターセッションに使うポスターのレイアウトを検討する ・発表スピーチの構成を検討する ・発表のリハーサルを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように話したりふるまったりすればよいか体験しながら学べた ・まちづくりの提言を、来年度に取り組む下級生にポスターとして残すために、発表形式をポスターセッションとした ・ポスターやスピーチの構成を考えて、わかりやすい発表を志向していた

3	各教室	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションを3セット行い、多くの方々に提言を伝える (1セット目は自クラス、2セット目は各クラスから1グループずつ参加し、3セット目は組み合わせを変えて行う) ・参加者から質問や意見を受ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々、協力いただいていた各種団体、行政、下級生が参加した ・参加者から具体的な助言をいただき、自分たちが思う以上に考えるべきことがあると実感できた ・地域の方々や下級生から称賛の声が挙がった ・セッションの組み合わせは各クラスから1グループとしたため、聞きたい提言を聞けない状況もあった
1	各教室	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをする ・聞けなかったグループの提言を見られるようにポスターを掲示する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの観点に従って学びを振り返り、どのような力をつけたか自覚したり、地域に対する思いを文章にしたりしていた

<活動記録写真>

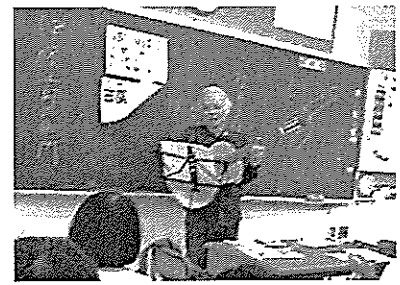
ゲストティーチャーから学ぶ



地域防災について学ぶ



災害時を想定して実習



地域の治水に尽力した偉人を学ぶ

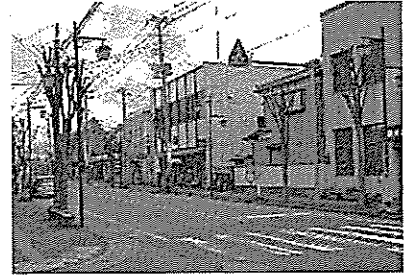
生徒がフィールドワークで取材してきた写真



川が立体交差するのはなぜか



ごみのポイ捨てについて調査



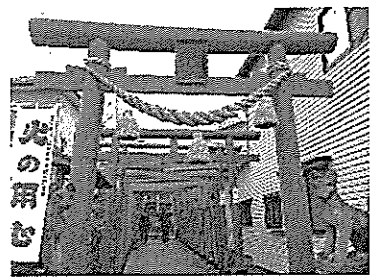
まちの街路樹を活用できないか



電信柱の設置状況を調査

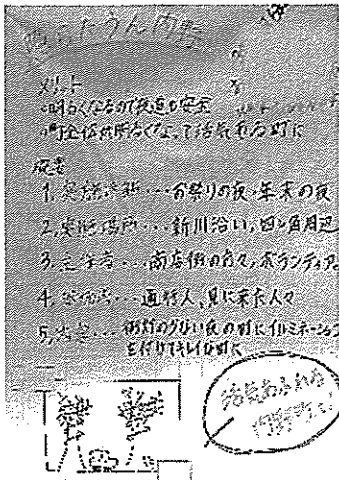


まちのバリアフリーを調査

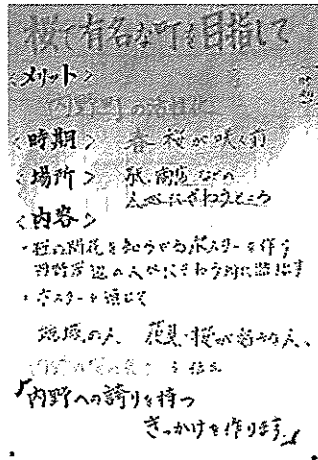


住宅地の中にある神社の歴史は？

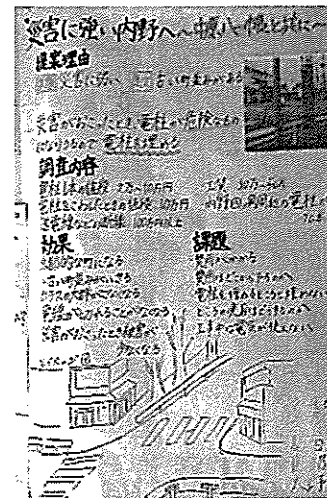
生徒が考えた提言をまとめたポスター



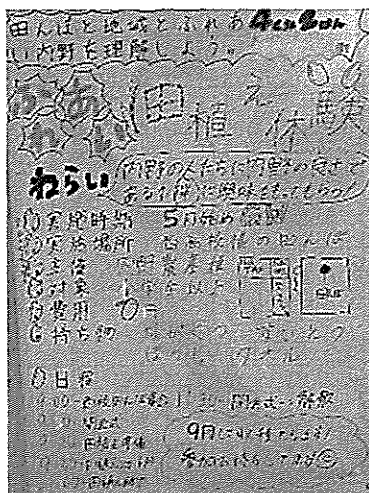
地域防災から街灯設置



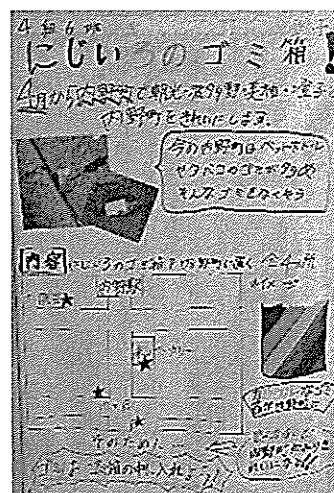
地域の誇り、桜並木でまちおこし



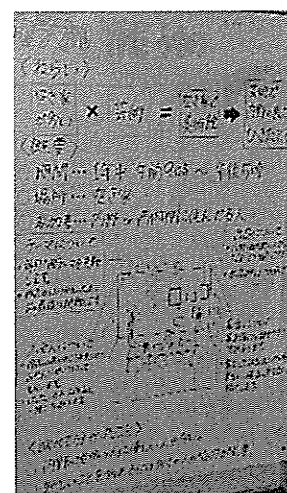
未来の電柱のあり方を提言



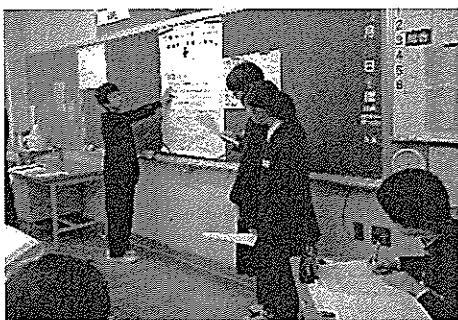
田んぼのある風景と人をつなぐ



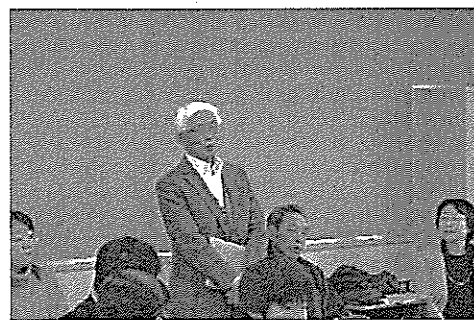
ゴミのないまちをめざした取組



空き家の活用



ポスターセッションの様子



参加者から質疑

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>地域の歴史、文化、自然、産業、景観、防災等のさまざまな視点から地域の実態を学び、未来をつくるまちづくりについて考え、地域提言として発信する。学区に流れる三本の川沿いを歩くりバーサイドウォークや、海岸清掃、新川清掃といったボランティア活動で、地域の景観や地域の人々に触れた経験を想起させながら、三年間のさまざまな活動の総括として実施した。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>200人を超える生徒がフィールドワークを行うにあたり、行き先の選定や相手方との時間のコーディネート、時間割の調整が難しい。生徒の発想を生かす活動として、アイデアを練る時間は多く取っていたとはいえ、アポイントを取るまでの期間が短くなったり、授業時間帯と合わなかったりということが多くあり、地域の方々の理解と協力が不可欠である。</p> <p>統計的な調査活動も多く、区役所など行政施設の協力がありがたかった。しかし、希望する生徒が多かったため、分散して行くように時間を調整したり、あらかじめ知りたい内容を担当部署に知らせたりする必要があり、かなり時間を費やすことになった。</p>
<p>(3) 生徒の反応</p> <p>ないものを求めるだけでなく、今あるよさを見つけて生かす発想となるような支援を心がけた。活動を通して地域のよさを実感する生徒が多く、特に地域の人々との温かい交流は、多くの生徒に地域のよさとして認識されていることがわかった。</p> <p>都市部にあるような娯楽や交通網を求める生徒たちは一定数いたが、他グループや地域の方々との交流を通して、遊びに行く場所と居住する場所を分けて考えるようになったり、だれのためのまちづくりかという視点で考えが広がったり、立場を変えて考えようとする姿がみられた。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>職員にとっても多面的な視点で地域を見る機会となり、地域への理解や地域の方々との交流を深めることができた。</p> <p>地域教育コーディネーターと連携することで地域人材との多くの出会いがあった。</p> <p>SDGsの17の視点を取り入れ、学区の地域から、市、県、国、世界へと視点を広げて取り組むカリキュラムマネジメントが進んだ。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]</p> <p>次年度に同じように学習に取り組んでも、今年度と同等の提言となることが考えられる。今年の学びを次年度に引継ぎ、来年度は今年度の学びの上に新たな学びを積み重ねたい。地域と共につくる学びをブラッシュアップさせながら継続していく。</p>